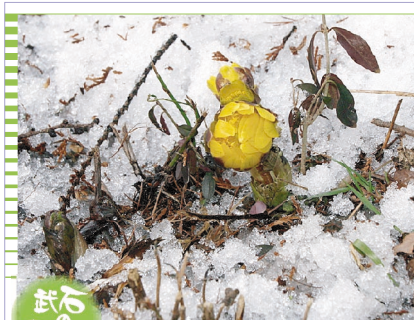




唐沢の福寿草

地域自治センターだより

平成24年/2012
3.16 | No.30 |



1月12日、武石保育園でどんど焼きが行われ、前日に作ったまゆ玉を焼いて今年の健康を祈りました。柳の枝に実るまゆ玉は、ほうれん草やニンジンのしぼり汁などを使って色をつけ、野菜や米の花をかたどった園児の手作りです。園庭には、地域の皆さんからいただいたダルマやしめ飾りでやぐらが組まれています。園児はやぐらに火がつくと大喜びで、まゆ玉が焼けるのを待ちきれない様子でしたが、火がおさまりまゆ玉が焼けると「あったかくて、あま〜い!」とおいしそうに食べていました。みんなの願いを口にした園児たちは、今年も健康で素敵な年になることでしょう。



節分豆まき



2月3日、武石保育園で節分豆まきが行われました。鬼が登場すると園児たちは泣いたり大騒ぎ。怖いながらも豆を投げつけると、鬼は降参して外へ逃げていきました。今度は福の神が春を運んでくると、さっきまでの泣き顔がニコリ笑顔になりました。



祝 成人式 ～ 新たな誓いを胸に ～



晴天に恵まれた1月8日、武石公民館で成人式が行われ、武石地域では28名が成人を迎えました。式典では、新成人全員から家族への感謝の言葉や、20歳の抱負などがありました。また、新成人を代表して、三崎信吾さんから「私たちはこれから自らの未来に向かい、自ら選択した道を歩んでゆきますが、生まれ育った武石を誇りに思い、育ててくれた家族や先生方を始め、お世話になったすべての方々に感謝し、悔いのない人生を送っていききたいと思います」と誓いの言葉がありました。



第19回 ともしびの里芸能祭 ～ 地域の芸能活動にふれあう ～

2月19日、武石公民館で第19回ともしびの里芸能祭が開催されました。武石地域で活動している団体やサークル、小、中学生など19団体が出演し、息のあった踊りや演奏、歌声など、日ごろの練習の成果を披露しました。会場内は大いに盛り上がり、武石地域の芸能にふれられた一日でした。



地域の重点事項を考える

●「雲溪荘の今後について」

厳しい経営が続いている雲溪荘の今後について、地域協議会では、1年にわたり「廃止も含めて存続の方策を検討する」という形で協議を進めてきましたが、委員が任期満了を迎えることから一旦協議を取りまとめ、4月から発足する新たな地域協議会に継続することに決定しました。

そのため、継続協議に必要な、これまでの経過や現時点で考えられる課題などをまとめました。

雲溪荘のあり方に関する検討課題

①意見の集約と結論の提示

新たな委員による協議を深め、平成25年3月までに、地域協議会として雲溪荘のあるべき方向を提示していただきたい。

②実態に基づく持続可能な継続案の検討

願いや思いだけで存続を決めるのではなく、雲溪荘の地域に果たす役割や地域づくりの効果、経営や運営の長期見通し、存続のために必要とされる施設の改修規模と金額、持寄り基金投入額等を具体的に検討することが必要。

③指定管理の受託団体の検討

現受託団体の市地域振興事業団が平成26年度以降も指定管理者として応募するか未定であり、

公募しても応募団体なしの可能性もある。受託可能な団体を検討するとともに、地域の受託団体の育成なども検討する必要がある。

④廃止の場合の事業や経費の検討

⑤専門部会設置の検討

⑥地域住民への周知

継続には地域住民の自発的な存続への取り組みや利用の増加が必要不可欠である。今後、雲溪荘のあり方を広く論議するため、地域協議会と地域自治センターが協働して、地域自治センターだよりや住民説明会などを通して広く情報提供を行っていく必要がある。

地域協議会の開催経過

●平成23年度第9回1月24日開催

●平成23年度第10回2月20日開催

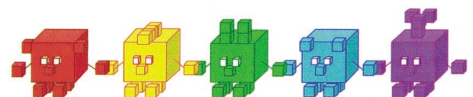
樹木破砕機の愛称決定！

1月16日号で募集した、樹木破砕機の愛称が「ごっさん」に決定しました。命名者は鳥屋の小池克海君（中一）です。

地域の不要木をチップに変える、はたらく「ごっさん」をよろしくお願いします。

武石のいいところみつけた♪

小学校編 ～豆腐作り～



1月25日、武石小学校2年生と武石生活改善グループのみなさんが豆腐作りと収穫祭を行いました。毎年2年生が、小学校に隣接する畑で豆腐の材料となる大豆の栽培から、収穫までを地域の皆さんと一緒にやってきたものです。まず作り方の説明を聞いた後、各班に分かれて早速調理に取りかかります。水に浸した大豆をすりつぶし、煮てできた汁をこし袋に入れしぼり、豆乳とおからに分けます。途中、子どもたちは豆乳をちょっと味見。「おいしい！」と大喜びです。その後、豆乳から豆腐が完成するまで、温度を調整したり、布で包んで水気をしぼり、豆腐が崩れないように真剣な表情でした。収穫祭では、お世話になった皆さんを招き、自分たちで育てた大豆で手作りした豆腐でおもてなしをし、皆でおいしくいただきました。



身近に潜む災害危険個所を指定します

～ 土砂災害防止法による
土砂災害警戒区域等の指定へ～

2月26日・28日、武石公民館で武石地域における土砂災害警戒区域等の指定に伴う、住民説明会が開催されました。「土砂災害警戒区域」は、土砂災害の恐れのある区域のことです。また「土砂災害特別警戒区域」は、建物が破壊され、住民に大きな被害が生じる恐れのある区域のことです。これらの区域を指定することで、身近にある土砂災害の恐れのある場所を住民にお知らせし、災害時の避難行動に備えていただくことができます。

- 県は土砂災害警戒区域等の指定をおこないます
- 上田市は土砂災害警戒区域内の災害時の警戒避難の計画に役立てます
- 土砂災害特別警戒区域では、災害被害を軽減するための行為制限があります

今回、武石地域で土砂災害警戒区域として指定するのは、急傾斜地55箇所、土石流の恐れのある渓流41箇所となりました。恐ろしい土砂災害から大切な命を守るため、武石地域自治センターでは、防災情報の提供をはじめ、防災訓練や講習会の実施などの支援を予定しています。しかし突発的に発生する土砂災害に対して行政の力だけでは限界があります。地域の皆さんが「自らの命は自らで守る」という意識を持ち、みんなで力を合わせて警戒避難を行うことが大切です。防災意識を高めるとともに、防災情報を収集するなど「日頃の備え」を万全にし、いざとなったら「早めの避難」を心がけましょう。

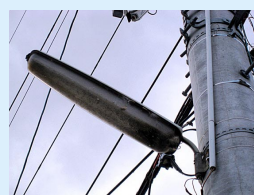


問 長野県上田建設事務所 整備課 ☎ 0268-25-7165
武石地域自治センター 建設課 ☎ 0268-85-2793

～ 自治会防犯灯のLED(発光ダイオード)化進む ～

市では23年度から、自治会が管理する防犯灯をLEDに交換する際の補助制度を新たに設け、5年を目途に市内にある防犯灯をLED化する事業を進めています。

現在、武石地域には防犯灯(自治会管理)が約400基あります。東日本大震災による東京電力福島原発の事故により、電力の供給事情は一変し、全国規模での電力不足が懸念されています。そのような中、今までの蛍光灯型防犯灯をLEDに交換することで、①CO₂の排出量が半分以上で環境に優しく、②消費電力が約35%削減され電力不足の解消にもつながり、③電気料が1基当たり年額で約720円安くなる上、④蛍光管の寿命も7倍に延びるため玉切れなどの交換費用も軽減されます。心配される明るさも現在の蛍光灯とあまり変わりはなく、⑤虫が集まりにくいことも利点です。今年度は武石地域内で95基を交換しました。



交換前



交換後

“一石五鳥?”の効果・利点が期待できる『LED化事業』に今、注目!! です。

ご寄贈ありがとうございます

番所ヶ原スキー場でお使いくださいと、武石Jrスキーレーシング様より、掛け時計をご寄贈いただきました。紙面をもちまして厚くお礼申し上げます。



地産地消推進の店に認定 ～ ずくっ娘味噌工房 ～

1月30日、ずくっ娘味噌工房(武石生活改善グループみそ班)が「地産地消推進の店」に認定されました。これは、市が地産地消推進のために、地元の農畜産物やその加工品を積極的に使用する事業者を認定するもので、武石地域で5店目、食品加工部門では初めての認定です。



代表の橋詰美代子さんは、「今後も武石産のより質の高い味噌作りを目指していきたい」と話していました。